

泌尿器科

岡 聖次

平成 24 年（平成 24 年 1 月 1 日～12 月 31 日）の入院患者総数 587 名（重複入院を含む）のうち 362 名（61.7%）は癌と診断された患者であり、その内訳は腎癌 35 名、腎盂・尿管癌 15 名、膀胱癌 166 名、前立腺癌 136 名、精巣腫瘍 2 名、その他 8 名である。手術件数は 446 件（438 名）であり、主な癌に対する手術としては腎細胞癌に対し 23 件（根治的腎摘除 13 件、腎部分摘除 10 件）、腎盂・尿管癌に対し 4 件（腎尿管全摘除 3 件、経尿道的腫瘍切除 1 件）、膀胱癌に対し 139 件（膀胱全摘 6 件、TUR-BT133 件）、前立腺癌に対し 33 件（前立腺全摘除 18 件、組織内放射線治療のアプリケーション留置 15 件）、尿道癌に対し 1 件（部分切除）、精巣腫瘍に対し 2 件（精巣摘除 1 件、腫瘍核出 1 件）、陰茎癌に対し 1 件（陰茎部分切除）施行した。また尿路結石に対する体外衝撃波による結石破砕術（ESWL）は 90 回（43 名：外来施行 49 回）施行した。

当科では、診療においては「十分なインフォームド・コンセントを行った上で、EBM に基づいた診療を行うこと」をモットーにし、癌患者に対しても全例「がん告知」を行い、病状や治療方針等について時間をかけて十分な説明を行っている。また不幸にして癌の進行により疼痛で苦しむことが予想される患者に対しては、早期の段階から院内の緩和医療チームに協力を依頼し、可及的に苦痛を取り除くことを心がけている。

平成 23 年 5 月には副腎、腎および前立腺に対し腹腔鏡下小切開手術の施設認定を得たことにより、手術的治療においては「手術は小さな創で」をモットーにし、原則として良性の副腎腫瘍に対する副腎摘除術は腹腔鏡下手術（ラパロ）で、腎癌や腎盂・尿管癌に対する腎摘除術は腹腔鏡下手術（ラパロ）か 6-7cm の皮膚切開で行う腹腔鏡下小切開手術のどちらかで、腎部分摘除術は 4-7cm の皮膚切開で行う腹腔鏡下小切開手術で、前立腺癌に対する前立腺全摘除術は 6cm の腹腔鏡下小切開手術で行っている。

限局性前立腺癌患者に対しては、当科では手術のみを勧めるのではなく、年齢や ADL、病状などを鑑みて、放射線療法（組織内、体外照射）あるいはその他の治療法も提示し、最終選択は患者側に委ねている。これまでは他院に依頼していた限局性前立腺癌治療に対する放射線治療として最も汎用されている IMRT（体外照射法）の治療器が今年度に当院に設置されたことにより、当院独自の工夫がなされこれまでに多くの治療実績がある高線量組織内照射法（HD-RT）とともに、前立腺癌に対する放射線治療は全て当院で行える体制が整っている。

尿路結石（腎結石、尿管結石、膀胱結石）症患者に対しては、症例に応じてリソトリプター S（ドルニエ社）を用いた ESWL 治療や経皮的腎砕石術（PNL）、経尿道的尿管砕石術（TUL）や経尿道的膀胱砕石術などを行っている。また、尿路結石症の診療においては、従来同様に再発予防にも心がけ、再発原因の一つとして重要な原発性副甲状腺機能亢進症の発見にも力を注ぎ、副甲状腺の手術も行っている。

去勢抵抗性前立腺癌に対してはドセタキセル治療を治療導入時は入院下で行っているが、2 コース目以降はほとんどが外来化学療法室で治療を行っている。

進行性腎細胞癌に対しては分子標的薬を中心に次々と新薬が開発され本邦でも保険収載されて

いるが、われわれはこれらの治療も症例を選びながら積極的に取り組んでいる。

外来診療においては、癌診療を中心とした急性期病院であるという当院の機能的役割に準じ、慢性疾患で薬剤投与が中心となっている患者に対しては、可能な限り紹介元での診療を依頼するなどして、病診連携の強化に努めている。

【2012 年度研究発表業績】

A-0

Yasunaga Y, Ueda T, Kodama Y and Oka T. Poorly differentiated neuroendocrine carcinoma of the seminal vesicle. Int J Urol. 2012;19 (4) : 370-372 (2012 年 4 月)

Takenaka T, Yoshida K, Ueda M, Yamazaki H, Miyake S, Tanaka E, Yoshida M, Yoshimura Y, Oka T, Honda K. Assessment of Daily Needle Applicator Displacement during High-Dose-Rate Interstitial Brachytherapy for Prostate Cancer using Daily CT Examinations. J Radiat Res. 2012;53(3):469-74. (2012 年 4 月)

Kawashima A, Tsujimura A, Takayama H, Arai Y, Nin M, Tanigawa G, Yasunaga Y, Mukai M, Uemura M, Nakai Y, Nishimura K, Nonomura N. The Osaka Renal Cell Carcinoma Clinical Study Collaboration. Importance of continuing therapy and maintaining one-month relative dose intensity in sunitinib therapy for metastatic renal cell carcinoma. Med Oncol, 2012; 29(5): 3298-3305 (2012 年 4 月)

Tsujimura A, Yamamoto R, Okuda H, Yamamoto K, Fukuhara S, Yoshioka I, Kiuchi H, Takao T, Miyagawa Y, Nishida M, Yamauchi-Takahara K, Moriyama T, Nonomura N. Low serum free testosterone level is associated with carotid intima-media thickness in middle-aged Japanese men. Endocr J. 2012 ;59(9):809-15 (2012 年 5 月)

Miyago N, Yasunaga Y and Oka T. Combined surgical treatment for localized prostate cancer and incidental ureteral duplication with ectopic ureter inserting into the prostatic urethra. Int J Urol. 2012; 19(8):790 -791 (2012 年 8 月)

A-3

安永 豊、小森和彦、原田泰規、東田 章、岡 聖次：腎癌患者 350 例の予後検討による 2009 年 TNM 分類の評価「日本泌尿器科学会雑誌」103 (3) : p.540-547、2012 年 6 月

高尾徹也、辻村 晃、木内 寛、奥田英伸、山本圭介、福原慎一郎、吉岡 巖、宮川 康、野々村祝夫、原 恒男、高田 剛、古賀 実、菅尾英木、市丸直嗣、菅野展史、中村吉宏、東野 誠、三浦秀信、山中幹基；前立腺肥大症患者の夜間頻尿に対するナフトピジルの効果：夜間頻尿特異的 QOL 質問票(N-QOL 質問票)を用いた評価「泌尿器外科」25(6): p.1373-1380、2012 年 6 月

王 聡、宮後直樹、原田泰規、安永 豊、岡 聖次：膀胱に発生した孤立性線維性腫瘍の1例「日本泌尿器科学会雑誌」103（4）：640-543、2012年7月

廣瀬智也、田原憲一、小倉裕司、大西光雄、鋏方安行、嶋津岳士、木内利郎、吉岡 巖、辻村 晃、野々村祝夫：自転車ハンドルによる腹壁筋損傷を伴った小児外傷性腹膜外膀胱破裂の一例「日本外傷学会雑誌」26（4）：p.421-425、2012年10月

辻村 晃、竹沢健太郎、奥田英伸、山本圭介、福原慎一郎、吉岡 巖、木内 寛、高尾徹也、宮川康、野々村祝夫：勃起障害患者を対象にしたインターネット調査。第一報：性生活に関する新しい質問票（PAIRS-SF、CPSIQ-12 および DPSIQ-5）を用いた解析「日本性機能学会雑誌」27（3）：p.235-245、2012年12月

A-4

岡 聖次：泌尿器科ベッドサイドマニュアル.IVベッドサイド検査の実際.2.画像検査：腎尿管膀胱単純撮影（KUB）「臨床泌尿器科」66（4）増刊号：p.198-202、2012年4月

岡 聖次：泌尿器科ベッドサイドマニュアル.IVベッドサイド検査の実際.2.画像検査：静脈性腎盂造影（IVP）、点滴静脈腎盂造影（DIP）「臨床泌尿器科」66（4）増刊号：p.203-208、2012年4月

B-2

Takayama H, Yasunaga Y, Nomura H, Mukai M, Yoshioka T, Uemura M, Nakai Y, Nishimura K, Tsujimura A, Nonomura N. Continuing therapy for more than one course and CRP level were very important in the prolongation of PFS and OS times in the general practice of sunitinib therapy in Japanese patients with metastatic renal cancer. 2012 ASCO Annual meeting. Chicago, USA, 2012年6月

Uemura M, Tsujimura A, Kawashima A, Arai Y, Tanigawa G, Nin M, Yasunaga Y, Yoshioka T, Nomura H, Mukai M, Fukuda S, Oka D, Nishimura K, Yoshida T, Satou M, Hatano K, Nakai Y, Takayama H, Nishimura K, Nonomura N. Gender as a factor associated with poor compliance in the treatment of metastatic renal cell carcinoma with VEGF-targeted therapy in Japanese patients. 2012 ASCO Annual meeting. Chicago, USA, 2012年6月

B-4

河嶋厚成、高山仁志、新井康之、谷川 剛、任 幹夫、安永 豊、吉岡俊昭、向井雅俊、植村元秀、中井康友、西村和郎、辻村 晃、野々村祝夫：転移性腎細胞癌の予後予測因子に関する検討～血清ナトリウム値は分子標的薬治療の予後を予測する重要な因子となる～。第100回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012年4月

安永 豊、王 聡、木下竜弥、山口唯一郎、原田泰規、岡 聖次：腎癌 T1 細分類は生存率ではなく非再発率に寄与する。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

種田建史、金城孝則、米田 傑、竹澤健太郎、野村広徳、鄭 則秀、高田晋吾、松宮清美：当院における腎細胞癌 146 例の、初診時血液検査（Hb、CRP、LDH、Neutrophil-to-lymphocyte ratio）による予後の検討。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

山本圭介、奥田英伸、福原慎一郎、吉岡 巖、木内 寛、高尾徹也、宮川 康、辻村 晃、中山治郎、松岡庸洋、野々村祝夫：Water Avoidance Stress ラットにおける Fesoterodine の効果。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

山口唯一郎、王 聡、木下竜弥、原田泰規、安永 豊、岡 聖次：当院における腎盂尿管癌の手術統計。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

中井康友、中山雅志、新井康之、向井雅俊、鄭 則秀、西村憲二、古賀 実、井上 均、小野 豊、安永 豊、細木 茂、西村和郎、野々村祝夫：去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）に対するドセタキセルの分割投与は標準用量と同等の効果を有する。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

任 幹夫、河嶋厚成、高山仁志、新井康之、谷川 剛、安永 豊、吉岡俊昭、向井雅俊、野村広徳、植村元秀、中井康友、辻村 晃、野々村祝夫：転移性腎細胞癌に対するスニチニブ治療における予後予測因子の検討～血清ナトリウム値は分子標的薬治療の予後を予測する重要な因子となる～。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

高山仁志、河嶋厚成、西村和郎、三好 進、山口誓司、岡 聖次、吉岡俊昭、目黒則男、松宮清美、植村元秀、中井康友、辻村 晃、野々村祝夫：根治切除不能または転移性腎細胞癌のに対するスニチニブ治療成績～日本人に 50mg 投与は適正か～。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

福原慎一郎、辻村 晃、奥田英伸、山本圭介、吉岡 巖、木内 寛、高尾徹也、宮川 康、野々村祝夫、野村大成、成田道郎：スーパーSCID マウスを用いたデュタステリドのヒト前立腺組織に対する組織変化の検討。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

高尾徹也、奥田英伸、山本圭介、福原慎一郎、吉岡 巖、木内 寛、宮川 康、辻村 晃、山本洋一、佐古田三郎、野々村祝夫：パーキンソン病患者における ED とパーキンソン症状との関連。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

木内 寛、辻村 晃、奥田英伸、山本圭介、福原慎一郎、吉岡 巖、高尾徹也、宮川 康、野々村

祝夫、野村大成：スーパーSCID マウスに移植したヒト前立腺組織に対する PDE 阻害剤タダラフィルの効果。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

吉岡 巖、吉田栄宏、中井康友、高尾徹也、矢澤浩治、高山仁志、宮川 康、辻村 晃、野々村祝夫：抗癌剤が誘発する悪心、嘔吐に対する制吐剤の効果に関する検討。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

辻村 晃、奥田英伸、山本圭介、福原慎一郎、吉岡 巖、木内 寛、高尾徹也、宮川 康、野々村祝夫、守山敏樹、山本陵平：健康診断受診男性のテストステロンに関する検討。第 100 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2012 年 4 月

吉岡 巖、種田建史、木下竜弥、原田泰規、安永 豊、岡 聖次、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 治療薬 Atazanavir 内服患者に発生した尿路結石症の検討。第 22 回日本尿路結石症学会、浜松、2012 年 8 月

高山仁志、河嶋厚成、西村和郎、三好 進、山口誓司、岡 聖次、吉岡俊昭、目黒則男、松宮清美、藤田和利、植村元秀、中井康友、辻村 晃、野々村祝夫：根治切除不能または転移性腎細胞癌に対するスニチニブ治療成績。第 50 回日本癌治療学会、横浜、2012 年 10 月

B-6

木下竜弥、王 聡、山口唯一郎、原田泰規、安永 豊、岡 聖次、角永茂樹、児玉良典：腎 Mucinous tubular and spindle cell carcinoma (MTSCC) の 1 例。第 219 回日本泌尿器科学会関西地方会、京都、2012 年 5 月

吉田康幸、中井康友、永原 啓、福原慎一郎、吉岡 巖、高尾徹也、辻村 晃、野々村祝夫、北村哲宏、大月道夫：左副腎出血に対して副腎摘除を行った 17 α 水酸化酵素欠損症 (17OHD) の 1 例。第 219 回日本泌尿器科学会関西地方会、京都、2012 年 5 月

松崎恭介、吉田康幸、吉岡 巖、奥見雅由、辻村 晃、野々村祝夫：後腹膜腫瘍として加療された気管支原性嚢胞の 1 例。第 219 回日本泌尿器科学会関西地方会、京都、2012 年 5 月

野村広徳、金城孝則、種田建史、米田 傑、竹澤健太郎、鄭 則秀、高田晋吾、松宮清美：左尿管腫瘍、多発リンパ節転移の術前診断にて後腹膜鏡下腎尿管全摘術、リンパ節廓清術を施行した IgG4 関連疾患の 1 例。第 219 回日本泌尿器科学会関西地方会、京都、2012 年 5 月

種田建史、木下竜弥、吉岡 巖、原田泰規、安永 豊、岡 聖次、児玉良典：副腎 lymphangioma の 1 例。第 220 回日本泌尿器科学会関西地方会、大阪、2012 年 9 月

高尾徹也、竹澤健太郎、奥田英伸、山本圭介、福原慎一郎、吉岡 巖、木内 寛、宮川 康、辻村晃、野々村祝夫：下部尿路症状患者に対する塩酸プロピペリンの夜間頻尿特異的 QOL (N-QOL) 改善効果の検討。第 62 回日本泌尿器科学会中部総会、富山、2012 年 11 月

安永 豊、種田建史、木下竜弥、吉岡 巖、原田泰規、岡 聖次：腎細胞癌の再発時期を考える。第 62 回日本泌尿器科学会中部総会、富山、2012 年 11 月

種田建史、木下竜弥、吉岡 巖、原田泰規、安永 豊、岡 聖次：腎被膜発生と考えられた悪性リンパ腫の 1 例。第 221 回日本泌尿器科学会関西地方会、大阪、2012 年 12 月

B-5

岡 聖次：シンポジウムⅡ「医学部から初期・後期研修への繋がり」座長。第 30 回臨床研修研究会。大阪、2012 年 4 月

安永 豊：シンポジウム「クリニカルパス関連話題」。国立大阪医療センターにおけるクリニカルパスの実際と課題。第 6 回大阪泌尿器科地域医療フォーラム。大阪、2013 年 2 月

B-8

安永 豊：泌尿器がんを見過ごさないため。第 26 回法円坂地域医療フォーラム。大阪、2012 年 6 月

岡 聖次：「限局性前立腺癌における放射線治療講演会」座長。大阪、2012 年 9 月

安永 豊：限局性前立腺癌の治療について。限局性前立腺癌における放射線治療講演会。大阪、2012 年 9 月

木下竜弥：～がんの放射線治療～泌尿器がんの放射線治療。第 27 回法円坂地域医療フォーラム。大阪、2012 年 10 月

岡 聖次：講演：前立腺癌の診断と治療における PSA の役割。大阪市東医師会「学術講習会」、大阪、2013 年 1 月

吉岡 巖：Panel discussion「泌尿器科癌における転移性骨腫瘍の修学的治療」、疼痛対策に難渋した前立腺癌の 1 例。第 2 回大阪骨転移治療研究会、大阪、2013 年 1 月

B-9

岡 聖次：ABC ラジオ「健やかライフ」「前立腺がん」。2012 年 5 月放送